

フランス非営利市民団体（アソシアシオン）による受刑者支援： Le Cimade Lorient の視察報告

河野 喬¹・Gurvan MAILLARD DE LA MORANDAIS²・

道下 整³・田中 洋子⁴・井川 純一⁵・石倉 康次⁶

French support of inmates: Le Cimade Lorient

Takashi Kawano・Gurvan MAILLARD DE LA MORANDAIS・

Sei MICHISHITA・Yoko TANAKA・Junichi IGAWA・Yasuji ISHIKURA

This report is a study of the French organization Le Cimade Lorient. Over the past 75 years, this service organization has cooperated with the French Prison and Probation Service, with a focus on supporting foreign inmates. This paper analyzes the organization's activities, finances, achievements, and future direction. Our results, which demonstrate the importance of equal relationships between inmates and supporters, have implications for Japanese associations pursuing similar work.

Key Word（キーワード）：France（フランス）、prisons（刑務所）、*Associations*（非営利市民団体）、*Le Cimade*（シマド）、*Service pénitentiaire d'insertion et de probation*: SPIP（社会復帰・保護観察所）

1. 緒言

フランスの非営利市民団体（associations；以下、アソシアシオン）は、協同組合、共済組織と並び、フランスの社会的経済を構成する3要素の一つ（松村，2006）とされている。根拠法である「アソシアシオン契約に関する1901年7月1日法」（Loi du 1er juillet 1901 relative au contrat d'association）には、その第2条において、「事前の許可や宣言なしに自由に結成できる」とあり、大きな自由を有し、行政的な義務を殆ど課されな

い存在である。近年の法改正により、設立数も飛躍的に増加しており（村田，2004）、今や社会的領域の担い手として、益々大きな存在感を現している。

本稿では、フランス社会の特徴的なアソシアシオンのうち、外国人の権利擁護及び受刑者支援に取り組む「Le Cimade」の活動に焦点を当て、その支所（Antenne）を訪問した際に行ったインタビュー調査の内容を報告する。

¹ 広島文化学園大学

² 広島大学大学院総合科学研究科博士後期課程

³ 社会福祉法人 天友会

⁴ 広島女学院大学

⁵ 大分大学

⁶ 立命館大学

2. 調査内容

（1）団体の概要

「Le Cimade」（Comité inter mouvements auprès des évacués；以下、シマド）は、移民及び難民¹⁾を支援する1940年設立の非営利市民団体（図1）である。前身は、第二次世界大戦中のアルザス＝ロレーヌ地域からの避難民を支援するためにプロテスタントの若者達によって設立された「CIM」（le Comité inter-mouvements）²⁾である。



図1 団体のロゴマーク

この団体の使命として、「抑圧・搾取された人と積極的に連帯する」と規約（Statuts）で定めており（第1条）、外国人への法的支援、刑務所及び拘置所の環境改善等についての提言等を行っている。シマドは、フランス全土を11の地域グループで分担し、各主要都市に事務所を配置して活動している。今回訪問したのは、「ブルターニュ・ド・ラ・ロワール地域圏」（La région Cimade Bretagne-Pays de Loire）にあるロリアン（Lorient）支所である。この区域内の行刑施設（図2）としては、ロリアン・プロムール刑務所（Centre pénitentiaire de Lorient-Ploemeur）がある。



図2 行刑施設の所在地

（2）方法

1）事務所名（住所）

「Le Cimade Lorient」（23 Boulevard de l'Eau Courante, 56100 Lorient, France.）※フランス改革派教会（Eglise Reformee de France；EPU）内に併設（図3・4）。

2）訪問日

2017年9月15日（金）

3）調査協力者

Bruno Noblet氏（メンバー、70代・男性）

Jean Herrmann氏（メンバー、80代・男性、元・医師）



図3 併設の改革派教会の内観

4）調査方法

半構造化インタビューにより、①活動内容、②支援体制及び労働環境、③活動における成果と課題、④活動を続けている理由、について聴き取りを行い、フランス語および日本語間の通訳は学識者が行った。インタビューをした内容は、ICレコーダーで録音し、逐語録を作成後、上記項目ごとに資料を用いた情報の補足を行い、整理した。

（3）倫理的配慮

事前に調査目的、インタビュー内容をフランス語に翻訳した文章で送信し、訪問当日、改めて口頭で説明したのち、インタビュー及びICレコーダーによる録音について承諾を得て実施した。作

成した報告（本稿）に、インタビュー協力者の氏名を明記することについて承諾を得ている。



図4 ロリアン事務所の内観

3. インタビュー内容

(1) 活動内容

1) 外国人の人権擁護

75年以上もの間、地域で暮らす外国人の支援を行うアソシアシオンとして活動してきたため、特に、移民及び難民の権利を守るアドボカシー活動に注力している。具体的には、移住についての実用的な情報提供、報道・Website・映画製作による啓発、そして祭り（Migrant'scène festival）などを通じたピアグループ及びボランティア間のネットワークづくりを行う。

近年は特に、スーダン、エチオピアなど地中海を渡り、非常に過酷で悲惨な状態を経験した過去をもつ人々を受け容れ、支援を募っている（図4）。



図5 キャンペーン「#LivingIsWinning」

2) 受刑者支援

フランス社会は、今、行刑施設改革の最中である。受刑者の人権擁護の取組みが盛んに行われており、安全面・衛生面をはじめとした環境改善を進めている。但し、1960年代に設置された老朽化した刑務所が多く、なかなか進まない面がある。併せて、過剰収容の問題が深刻であり、ロリアン・プロムール刑務所では、収容定員187名に対して約235名が収監されている（うち10%が外国人受刑者）。全国では、収容定員58,681名に対して、68,432名（116.6%）が収監されている（Ministère de la Justice, 2017）。そして、大きな問題は、上記のうち2万人が拘置所（Les centres de détention）に収容され続けている事実である。拘置所の居室は小さいため、床で寝ざるを得ない受刑者が居る。拘置所は、未決の容疑者、懲役2年ほどの社会復帰の展望が高いとみなされる受刑者も収容され、若い人が多い。特に、アディクション（麻薬依存）の問題を抱える人が多く、精神科医等の医療スタッフが支援に入っている。

ロリアン・プロムール刑務所の受刑者に対する支援は、シマドを含め12のアソシアシオンによって展開されている。①家族面会時に服役囚の子どもを一時的に預かる、②話し相手として刑務所を訪問する、③手紙の書き方を教える、④社会的支援（仕事、職業訓練など）を行う、⑤医療関係（アルコール・薬物問題等）の支援、⑥就労活動、⑦教会による衣服等の提供、⑧宗教的な儀式、⑨教育（フランス語、職業訓練、パソコン指導など）、⑩大学生による芸術（演劇、アート）、⑪ヨガ・リラクゼーション、⑫金銭管理（相談）などである。

(2) 支援体制及び労働環境

1) メンバー

ブルターニュ・ド・ラ・ロワール地域のシマド総メンバー数は300名を数え、賛助会員も多い。ここロリアンのメンバーは全員で12名である。うち3名が常勤ボランティアとして活動していた。その3名とは、Bruno Noblet氏とJean Herrmann氏、そしてMaryvonne Naour氏（訪問時

は不在）である。

2) 労働環境

Noblet氏, Herrmann氏は, ここロリアンのシマドで勤めて8年程になる。仕事量は, そのときの仕事内容（支援を要する人の状況）による。一般的な一週間の流れは, 月曜日は課題の共有, 毎週木曜は14時から16時30分, スタッフとして訪れた人の相談を受けるというものである。その他は, 個別の相談に乗ることがあり, 訪問日(金曜日)は, 弁護士とミーティングを行っていた。そして, 明日(土曜日)は3時間, 3人のロシア人と通訳者と一緒にミーティングをするとのことであった。着信するメール数は非常に多く, 確認するだけでも数時間かかり, その他, 法改正の内容についての勉強会を支援者向けに開催することがあるとのことであった。

なお, メンバーには精神科医も居り, 皆が精神的に安定して, 長く仕事をするにはどうすればいいか話し合う時間を大切にしていた。メンバーは, 相談支援において, 受刑者の複雑な問題を扱う。移民, 難民の場合, 想像ができないほど非常に辛い目にあってここまで辿り着く場合があるので, メンバー間で語り合い, 互いに傾聴し合うことで, 支援における苦労を分け合うことが大切であるとのことであった。

3) 活動資金

シマド全体(12地域87グループ)の2016年度の収支を見ると, 収入が全体で976M€(約1279億円, 1€=131円換算)であり, うち36%は一般からの寄付及び遺贈, 9%は財団による資産運用収益等, 47%は国等からの助成金, そして8%は営業及び販売利益である(Le Cimade, 2017, 表1)。但し, 各グループ間で差があり, 政治的影響による地域格差が生じている。シマドは, 以前は行刑施設に唯一単独で支援に入ることができるアソシーションとして, 補助金による安定した財政を基盤として専門家及び正規職員を雇い, 刑事施設の人権侵害の実態を指摘していた。しかし, Herrmann氏によると, 「このことで, 次第に政府との関係が

悪くなってきた。特に, サルコジ大統領の時代には, 複数のアソシーションが組織され, 競争原理によって補助金が分散されるようになり, 活動が難しくなる地域が出てきた」とのことであった。

表1 法人収入の一覧(2016年度)

Origine des ressources

Ressources collectées auprès du public, dont :	3,49 M€
Dons	2,76
Legs	0,73
Fondations et financements privés	0,88 M€
Subventions et autres concours publics	4,47 M€
Ventes et autres produits	0,79 M€
TOTAL des ressources externes 2016	9,63 M€
Reprise de provisions	0,09
Report ressources exercice antérieur	0,04
TOTAL GENERAL	9,76 M€

現在, ロリアンのシマドは, 国家から1€の補助も受けていないとのことである。Herrmann氏は, 「前に居た町のシマドには年5,000€が県から補助されていた。地域の代表と良い関係が築けていたことが背景にある」と語った。その地域の人々が, 移民・難民の人権, 罪を犯した人の生活背景, 及び社会的領域の問題について理解と関心を抱いているかどうか, 政治家の姿勢に影響を及ぼすことが窺える。

上記のとおり, シマドはその置かれた地域によって, 財政状況は異なるが, 活動資金がある場合には, ボランティアの交通費, 郵送費などを支出する。財政面が困難な時は, 他のアソシーションと連帯して, 費用を工面するとのことであっ



図6 広報誌及びOfficial T-shirt

た。Tシャツ販売（図6）等，単なる資金集めではなく，啓発及び新たなメンバーの参加を求める姿勢で取り組んでいた。Noblet氏は「ここでは，主に私費で活動している。生きていくために，それほどお金が必要なわけではない。この活動にとって，お金の問題は重要ではない。」と語った。

（3）活動における成果と課題

1）社会復帰・保護観察所との連携

フランス司法省管轄の再犯防止・社会復帰の部署として社会復帰・保護観察所（Service pénitentiaire d'insertion et de probation; 以下，SPIP）があり，2015年時点で各県に1か所ずつ全国で103か所，裁判所や行刑施設併設されている支所が169か所設置されている（図7）。そこで，直接支援を行う社会復帰・保護観察官（Conseiller pénitentiaire d'insertion et de probation; 以下，CPIP）が増員されている。

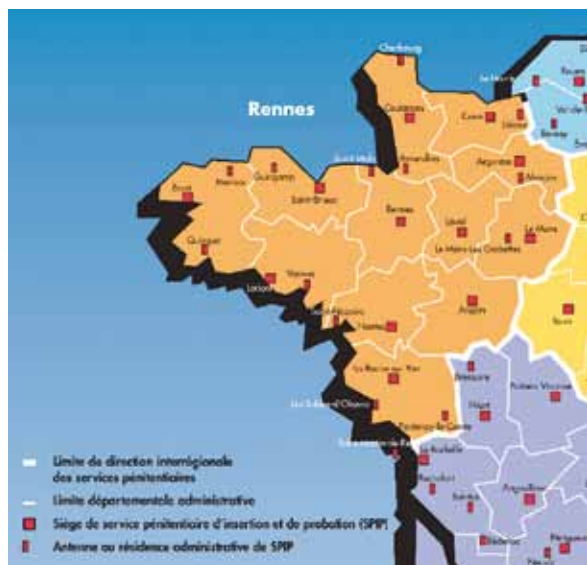


図7 SPIP・CPIP（社会復帰・保護観察所）の所在地

しかし，CPIPが増員されたとしても，受刑者の数が増え，過剰収容が社会問題化しているのです。個々のCPIPは仕事を山のように抱え，刑務所内だけでなく，社会内処遇の対応にも追われている。そのため，受刑者から見ると，CPIPは電話に出てくれない，メールを返してくれない，と批

判の的になりやすいとのことであった。

Noblet氏は、「そのような中で，私たちはSPIPに協力して仕事をしている。先ほども，SPIPの同僚と障害に関する話をしてきた。フランスでは，障害の種類によっては，障害年金がもらえる。そして，仕事が探しやすくなる。実際には，そう簡単に仕事が見つかるわけではないけれど。障がいのある人に対する支援が，足りない現状がある。」

Herrmann氏は「刑務官等は，受刑者の権利，社会保障制度に詳しくないことが多いから，シマドが間に入って支援する流れとなる。本来ならば，受刑者がSPIPに『シマドの人に会いたい』と申告して，初めて動くのが原則なのだが，こちらから働きかけることがある。刑務所に入って支援するには，特別な協定を結ばなければならない³⁾。その協定書はここではNobletさんしか持っていない」という。Noblet氏は，「法的根拠があるわけではないが，10年前にSPIPができたときから，協力してきた。SPIPは多忙であり，外国人は言語の問題があるので大変だった。シマドは，SPIPとの間に信頼関係を築いているので，外国人受刑者のリストを共有し，一人ずつ会いに行くことにしている。現在，27人のリストを預かっていて，その人達の出身国は，レバノン，アルジェリア，アンゴラ，アルメニア，ブラジル，コンゴ，モロッコ，ポーランド，ポルトガル，ルーマニア，ロシアなどである。スペイン語でコミュニケーションを図ることがあるが，場合によっては，通訳者を連れていく。同じ国の受刑者の力を借りることもありうるが，それは良い結果にならない。」という。

Noblet氏は，SPIPとの関わり方について「シマドのボランティアは，毎週金曜日に2・3時間入っており，しかも外国人受刑者に対象を限定しているので，CPIPよりも長い時間，一人の受刑者に関わることができる。今日も，CPIPがする仕事を代行した。受刑者の書類（滞在証明書）をヴァンヌ県庁にもっていく仕事だった。書類ができたら郵送で刑務所に送ってくれる。良い連携ができている。10年間の信頼関係の結実である。」と，長年の取組みによって，官民の連携・協働が柔軟にできるようになったことを教えてくれた。但し，

このことは一般化しにくい状況があるようである。Noblet氏は、「シマドだからと言って、必ずしも刑務所に入ることが認められているわけではない。受刑者には強制的にシマドに関わる義務はないし、SPIPにも関わらせる責任はない。歴史を経て、信頼関係が深まったことで、現在の連携に至っている。私たちの例は、決して一般的なものではない。特に、刑務所と県は、非常に複雑な関係にある。受刑者は、出所後に県庁に行き、手続きを行うことが一般的だ。」

こうした現行制度の課題について、Noblet氏は、「欧州裁判所からの示唆でなければ、フランス政府は動かない。EUのレベルで取り組み、法制化しないと、フランス政府に改革のプレッシャーを掛けることができない。EUは、方向性は示すが、実行するかしないかは国家の裁量に委ねられる。改善意見を示さないと、具体化はしない。フランスでは、刑務所以外の環境を十分には提供できていない。社会貢献活動を行うことで認められる社会内処遇は、軽罪の人しか対象にならない。だから、再犯者が非常に多い。ここロリアンでも問題となっている。実は、先ほど、再犯をしてしまった一人に、刑務所の中まで会いに行ってきた。」と、実例を示してくれた。

（４）活動が続けている理由

１）「地球上に外国人はいない」（“Il n'y a pas d'étrangers sur cette terre”）

この役割のやりがいとは何か、という問いかけに、Noblet氏は「大学に入った18歳のときから、社会活動が続けてきた。人の会うだけで楽しいし、彼らはとても困っている人だ。その解決を手伝うこと自体に、やりがいがある。定年退職者にとっては、良い活動だと思う。」と応えた。Herrmann氏は、「刑務所に入る状態となった人たちの人生に関わる中で、これまでの自分の人生の中にも、彼らと同じ困難の時期があったと、感じることもある。だから、助けたいという気持ちになるのかもしれない。」と述べている。

さらにNoblet氏は、「この活動は、差別に対する闘いであるし、政治・政策的な活動も含む。法

律改正のための提言を作成し、政治家に提出している。政策を批判する映画を撮り、上映している。」と続けた。ソーシャルアクションを企画して活動を行っていることが窺えた。

なお、シマドは、団体として支持する政党はなく、各会員の自由意志を尊重している。様々な価値観は、活動に多様性を持たせることが大切だからということであった。「地球上に外国人はいない」（“Il n'y a pas d'étrangers sur cette terre”）は、こうした姿勢を示すものであり、様々な機会を通して広がっている。

２）「私たちは警察でも、行政でもない」

Noblet氏は、「結果として再犯防止につながればいいが、私たちの役割は「これをしてはいけない」を命じることではない。信頼関係の中で支援することが役割なので、彼らを批判するようなことはしない。我々は、フランス行政ではなく、警察ではなく、非営利市民団体である。これをまず、最初に本人の前で表明する。非政府的なイメージだから、信頼される。」と述べている。

なお、我々からの「フランスの世論は、触法者に対する支援についての賛否はどうか」との質問に対しては、Noblet氏からは「半々である。自業自得と考える人も多い。フランス刑務所の劣悪な環境は、その現実を表している。刑務所を出て、新しい道を作りだすことが提案しにくい雰囲気がある。政治家も支援を支持しない。支持が得られにくく人気落ちることを恐れているからだろう。」との指摘があった。Herrmann氏は、「刑務所を出所した人に対するイメージは、まだ危険というものだ。家族も『そこに何しに行くの？』と怪訝な顔をする。悪循環が作られている。」との指摘があった。シマドは歴史がある外国人支援のアソシアションなので、ロリアンに降り立った外国人は、まずシマドを紹介されることが多いとのことであった。シマドのメンバーは、彼らを歓迎して出迎え、他の専門的な支援を必要とする際には、それを得手とするアソシアションに繋げていた。

ただ、最後にNoblet氏が述べた「フランスのア

ソシアシオンは両面的である。フランス社会の良い部分であり、悪い側面もある。政府は、アソシアシオンを尊重はするが、必要な資金を出さないのだから。」とのコメントは、貴重な発言として留めておきたい。

4. 日本の地域生活定着支援への示唆

(1) 「対等な関係性」への留意

シマドをはじめ、フランスの受刑者支援を行うアソシアシオンに共通する姿勢は、支援活動における「対等な関係性」(Equal Relationship)である。その姿勢は、「結果として再犯防止につながればいいが、私たちの役割は、行政でも警察でもなく、対等関係及び信頼関係の中で支援することにある。」(Noblet氏)という発言からも窺える。

日本においても、犯罪被害者支援において「専門家－被害者間」を「対等」なものとして捉えず、弱い存在として捉え続けることが、被害者に2次・3次被害を及ぼす危険性について論述したものが(岡村, 2015)がある。地域生活定着支援において、再犯防止を最優先にした支援は、監視や強制といった権力的な関わりを惹起させるという観点から、ソーシャルワークと相容れない姿勢だと考える。再犯防止及び社会復帰は、更生保護の分野で長年取り組まれてきた他分野言語であることを謙虚に受け止め、安易な流用ではなく、本人の生活再建・獲得を第一に考えたソーシャルワークの展開をめざすことが望まれる。これが、多職種連携(連帯)及び協働の際の、ソーシャルワークの存在意義であると考ええる。

(2) 人権問題としての位置づけと戦略的啓発

フランスにおいても、刑罰のポピュリズムの影響は大きく、受刑者支援に対する世論が大きく分かれていた。シマドでは、過酷で人間性を踏みにじられるような環境のなかで生き向いてきた受刑者の語りを受けとめ、受刑者も一人の人間であること、外国人受刑者・刑余者の場合には「地球上に外国人はいない」《Il n'y a pas d'étrangers sur cette terre》や「生きることは勝利である」《Vivre est

une victoire》といったキャンペーン(図8)を張り、社会に対して訴え続けている。性別、障害、及び年齢差別等と同様に、人権問題として位置付けることで、このことを放置することの不条理さを世の中に問う戦略的な啓発活動を展開していた。日本における例としては、罪を犯した人が社会でやりなおすことを支援する民間団体が精力的な活動を展開しているが、その実績に比して社会的理解が進んでいるとは言い難い。同じ社会的領域の問題と向き合う団体間で連帯し、広く戦略的にアピールすることが一層求められる。



図8 Official Website

(3) 「地域共生社会」における非営利市民団体の役割

本稿執筆時点(2017年現在)、高齢者・障害者・子ども等全ての人々が、暮らしと生きがいをとものに創り、高め合う社会「地域共生社会」の実現が提言されている。この流れに合わせて、地域包括ケアシステム構想も高齢者のみならず、障害、子どもを含めたすべての人を対象とする概念に更新され、自助、共助、互助、公助のうち、特に、共助及び互助を強調するものとなっている。

こうした流れのなかで印象的なのは、Noblet氏が述べたフランスのアソシアシオンのジレンマである。氏は、フランス政府が、社会的領域の問題解決をアソシアシオンに委ねすぎているという問題意識から、EUからフランス政府に法制化を求めることで政府の法整備、特にやり直せる社会の道筋づくりを行う必要性を指摘した。アソシアシオンの活動が、自由かつ活発に展開され、社会的領域の諸問題の緩和・解決に不可欠なものに発展

すればするほど、公助が後退することへの危惧が込められているように考える。フランスのアソシアションは、フランス市民の社会的領域への関心の高さがなせる連帯の具体化である。但し、実際に地域格差が生じ、担い手の熱意と力量に依存する状態も窺える状況であった。日本における非営利市民団体の活動は、今後ますます盛んとなる。これが、公助の後退ではなく、公民の協働の選択肢を拡大するものとなるよう注視していきたいと考えている。

謝辞

この現地調査は、JSPS科研費JP15K04007「障害・高齢者の刑余者支援の支援体制・労働環境に関する研究」の助成を受けて行った。

インタビューに快く応じてくださったLe Cimade LorientのBruno Noblet氏とJean Herrmann氏に深く感謝を申し上げる。併せて、渡仏に先立ち貴重な専門的助言を頂いた健康科学大学の鷺野明美先生、大分大学の小山敬晴先生、尚美学園大学の北川敦子先生に厚く御礼申し上げます。そして、本調査の準備及び資料整理にご協力頂いた呉みどりヶ丘病院の五百竹亮丞氏に感謝する。

資料

- 1) 岡村逸郎, 2015, 犯罪被害者支援における「対等」な支援者－被害者関係の社会的構築, 犯罪社会学研究, 40, 87-99.
- 2) 松村祥子, 出雲祐二, 藤森宮子, 2006, 社会福祉に関する日仏用語の研究 (2), 放送大学研究年報, 23, 97-107.
- 3) 村田尚紀, 2004, フランスにおけるアソシアションの現状, 立命館大学人文科学研究所紀要, 84, 119-145.
- 4) Bureau des statistiques et des études, 2017, Statistique mensuelle des personnes écrouées et détenues en France (situation au 1er janvier 2017).
- 5) De l'administration pénitentiaire, 2015, Les chiffres clés, Ministère de la Justice.
- 6) De l'administration pénitentiaire, 2016, Statistique trimestrielle du milieu ouvert: Situation au 1er janvier 2017 Mouvements au cours du 4ème trimestre, Ministère de la Justice.
- 7) La Cimade Web site, 2017.10.31確認, En region: BRETAGNE-PAYS DE LOIRE.
- 8) Lindsay. G, Hems. L, 2004, Societes cooperatives d'interet collectif: the arrival of social enterprise within the French social economy, Voluntas: International Journal of Voluntary and Nonprofit Organizations, 15(3), 265-286.
- 9) Véronique Vasseur, 2000, Médecin-chef à la prison de la Santé, Le Cherche Midi.

脚注

- 1) 本稿では、「難民」を1951年「難民の地位に関する条約」における「人種、宗教、国籍、政治的意見やまたは特定の社会集団に属するなどの理由で、自国にいと迫害を受けるかあるいは迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた」人々として表記する。
- 2) CIMは、スカウト連合及びガールスカウト連合を含む3つのプロテスタント団体から構成された組織であり、戦時下のナチズムによる迫害に曝される人々の支援活動を行った。
- 3) フランス刑務所管理局によると、パートナーシップ協定を結んでいるアソシアションは次のとおりである。L'ANVP, AUXILIA, La Cimade, CLIP, Le Courrier de Bovet, La Croix-Rouge française, David et Jonathan, La FARAPEJ, La FNARS, La FREP, Le GENEPI, Sidaction, Petits frères des Pauvres, L'UFRAMA, AIDES, Le Secours catholique, La Licra.